



図10. 2000年度にイノシシ被害が発生した島根県の各水田面積と被害率の関係。
被害率＝被害を受けた筆の面積／水田面積. データはNOSAI島根の提供による.

表6. 島根県浜田市における水田
放棄地の管理状況.

管理の有無	n	%
なし	296	97.0
あり	6	2.0
一部あり	3	1.0
合計	305	100.0

表7. 島根県浜田市の水田放棄地における土壌の状態と用水路跡及び湧水の有無.

土壌の状態	用水路跡及び湧水	n	%
乾性	あり	109	35.7
	なし	119	39.0
湿性	あり	25	8.2
	なし	37	12.1
両方混在	あり	8	2.6
	なし	7	2.3

(35.7%)で用水跡や湧水が存在していた。水田放棄地の植生高は7月の 92.5 ± 5.3 (SE) cmから増加して8月に最高値 123.5 ± 5.3 (SE) cmを示した後減少し、降雪後の1月には 30.8 ± 2.7 (SE) cmとなった(表8)。8月の植生高は他の調査時期よりも有意に高く、1月のそれは有意に低かった(Tukeyの方法による多重比較, $p < 0.05$)。被度は7月, 8月, 10, 11月の間で有意差は見られなかったが, 1月になると有意に減少した(表9, ボンフェローニの方法による χ^2 検定を用いた多重比較, $p < 0.05$)。被度が75~100%の方形区は7月から11月までは73~96区(52.1~68.6%)確認されたが, 1月には48区(34.3%)に減少した。

表8. 島根県浜田市の水田放棄地における植生高の季節的变化(n=140). 異なるアルファベットはTukeyの方法による多重比較で有意差(p<0.01)が確認された季節を示す.

	平均値 ± SE(cm)	K.W.-test*
7月	92.5 ± 5.3 A	p<0.01
8月	123.5 ± 5.3 B	
10, 11月	67.4 ± 3.5 A	
1月	30.8 ± 2.7 C	

* Kruskal-Wallis検定の結果.